

## 6. 研究報告抄録

瀬戸臨海実験所研究報告 (Publications of the Seto Marine Biological Laboratory) 第35巻第6号が、1992年11月30日に発行された。掲載論文7篇、生物学データ1篇、総頁数は113頁。また、第36巻第1/2合併号が、1993年3月30日に発行された。掲載論文9篇、総頁数は106頁。

第35巻第6号 (1992年11月)

論文12. Nishikawa, T. The ascidians of the Japan Sea. III. [西川輝昭. 日本海産ホヤ類. III]. 前報に引き続く第3報として、日本海産のホヤ類158種の地理的分布をまとめるとともに、その生物地理学的特性について考察した。また、他の海域のホヤ相との比較を行った。(303-334頁)

論文13. Kobayashi, N. Spawning periodicity of sea urchins at Seto. IV. *Hemicentrotus pulcherrimus*. [小林直正. 瀬戸臨海実験所周辺海域でのウニ類の放卵周期性IV. バフンウニ]. 前報に続く第4報として、瀬戸臨海実験所周辺に産するバフンウニを材料に、その生殖腺指数および生殖腺の塗末標本を調べ、本種の放卵が半月周期性を示すことを明らかにした。(335-345頁)

論文14. Kearn, G. C., Ogawa, K. & Maeno, Y. The oncomiracidium of *Heteraxine heterocerca*, a monogenean gill parasite of the yellowtail, *Seriola quinqueradiata*. [Graham C. Kearn・小川和夫・前野幸男. プリの鰓に寄生する単生吸虫 *Heteraxine heterocerca* のオンコミラキジウム]. 採集した *Heteraxine heterocerca* の卵を実験室で飼育しオンコミラキジウムを得た。

これまで本幼生の形態は不十分の知見しかなかったので再記載を行った。(347-350頁)

論文15. Kearn, G. C., Ogawa, K. & Maeno, Y. Egg production, the oncomiracidium and larval development of *Benedenia seriola*, a skin parasite of the yellowtail, *Seriola quinqueradiata*, in Japan. [Graham C. Kearn・小川和夫・前野幸男. 日本産のプリに皮膚寄生する単生吸虫 *Benedenia seriola* の卵形成, オンコミラキジウムおよび幼生の発生]. *Benedenia seriola* の産卵量, 実験室で卵より孵化したオンコミラキジウムの形態, およびこの幼生が成体に至る14日間の形態変化を記載した。(351-362頁)

論文16. Wada, K. Temporal change in density and size structure of the sea cucumber *Polycheira rufescens* inhabiting the intertidal boulder beach at Hatakejima Island, Tanabe Bay, central Japan. [和田恵次. 田辺湾島島の転石海岸潮間帯に生息するムラサキクルマナマコの密度とサイズの経時的変化]. ムラサキクルマナマコ個体群の経時的変化について、分布北限の田辺湾で密度、サイズ組成、生息場所の潮位、および転石サイズとの関係を調べた。密度の経時的変化は調査地点毎に異なっていた。10-20 cm 長の転石が多くなると密度も高くなった。サイズ組成は季節にかかわらず一山で、潮間帯上部と下部とで同じであった。転石が大きいくほどナマコの個体数は増加したが、ナマコのサイズの平均値は転

石の大小で変わらなかった。(363—370 頁)

論文 17. Kubota, S. & Takashima, Y. Re-description of *Sarsia japonica* (Nagao) (Hydrozoa: Corynidae) from Hokkaido, Japan. [久保田信・高島義和。北海道産ニホンサルシア(ヒドロ虫綱:タマウミヒドラ科)の再記載]。室蘭および厚岸産の群体を基にニホンサルシアを再記載した。ポリプや実験室飼育により得たクラゲで、これまで記載されていなかった形質が認められた。本種のポリプの基質と地理的分布をまとめるとともに、最も近縁の *Sarsia producta* との相違を指摘した。(371—382 頁)

論文 18. Kubota, S. Chromosome number of a bivalve-inhabiting hydroid, *Eugymnanthea japonica* (Leptomedusae: Eirenidae). [久保田信。カイヤドリヒドラクラゲ(軟クラゲ目:エイレネクラゲ科)の染色体数]。中央および南日本産のムラサキイガイやマガキに共生するカイヤドリヒドラクラゲ 6 個体群について、空気乾燥法により、染色体数を  $n=15$ ,  $2n=30$  と決定した。染色体数の地理的変異は見られなかった。(383—386 頁)

生物学データ. Kobayashi, N. Bioassay data for marine pollution using sea urchin eggs, 1984 to 1989. [小林直正。ウニ卵を用いての海水の汚染の生物検定。1984—1989]。瀬戸臨海実験所内の配管からの流水、島島周辺の表層水と底層水、および網不知の表層水と底層水が、バフンウニとムラサキウニの初期発生に及ぼす影響をまとめた。(387—415 頁)

論文 1. Radashevsky, V. I. Revision of the genus *Polydora* and related genera from the North West Pacific (Polychaeta: Spionidae). [—。北西太平洋産の *Polydora* 属とその関連属(多毛綱, スピオ科)の再検討]。4 属 14 種を記載・図示したが、8 種は記載済、2 種は亜種より昇格したもの、4 種は新種、6 種はシノニムとして取り扱った。属の標徴とともに検索表や生態的なデータも示した。(1—60 頁)

論文 2. Gulbin, V. V., Golikov, A. N. & Sirenko, B. I. List of prosobranch gastropod molluscs of the Moneron Island shelf (Sea of Japan) with reference to their distribution and biogeographical composition. [—。日本海モネロン島の陸棚に産する前鰓類のリストおよび分布と生物地理学的組成]。モネロン島の陸棚より 13 目 53 科 64 属 113 種の前鰓類を記録した。それらの底質選好性、垂直分布、および生物地理学的組成をまとめるとともに近隣の海域の前鰓類相との類似性を分析した。(61—72 頁)

論文 3. Ohtsuka, S. Note on mature female of *Itoitantululus misophricola* Huys, Ohtsuka and Boxshall, 1992 (Crustacea: Tantulocarida). [大塚 攻。*Itoitantululus misophricola* の成熟雌(甲殻綱: Tantulocarida)について]。沖縄産の宿主橈脚類 *Misophriopsis okinawensis* から得られた *Itoitantululus misophricola* の成熟雌を初めて記載するとともに、科の一標徴として雌の頸部の構造を指摘した。(73—77 頁)

論文 4. Yusa, Y. Copulatory load in a simultaneous hermaphrodite *Aplysia kurodai* Baba, 1937 (Mollus-

ca: Opisthobranchia). [遊佐陽一. 同時的雌雄同体のアメフラシ(軟体動物門, 後鰓亜綱)の交尾荷重]. アメフラシの交尾に関連した移動を調べた結果, 連鎖交尾の先頭個体の移動力が他個体の総体積で減少することがわかった。(79-84 頁)

論文 5. Kubota, S. Resting stage and newly hatched hydroid of a cool water hydrozoan species *Climacocodon ikarii* Uchida (Hydrozoa, Margelopsidae). [久保田信. 冷水系のヒドロ虫ハシゴクラゲ(ヒドロ虫綱, ハシゴクラゲ科)の休眠期と孵化したてのポリプ]. 急速発生を行うとされていたハシゴクラゲが休眠期をもつことがわかった。シストとしての休眠期とそれより孵化したばかりのポリプを記載した。(85-87 頁)

論文 6. Kubota, S. The medusa of *Thecocardium quadratum* (Werner)(*Anthomedusae*, *Ptilocodiidae*) from southern Japan. [久保田信. 南日本産の *Thecocardium quadratum* (花クラゲ目, ウミエラウミヒドラ科)のクラゲ]. 第二の記録(海からは初記録)として *Thecocardium quadratum* のクラゲを口永良部島産の標本に基づき記載し, 原記載標本との差を明らかにした。(89-92 頁)

論文 7. Kubota, S. A new host of *Eugymnanthea japonica* (Leptomedusae, Eirenidae). [久保田信. カイヤドリヒドラクラゲ(軟クラゲ目, エイレネクラゲ科)の新宿主]. カイヤドリヒドラクラゲの第5番目の宿主として, ムラサキインコガイを対馬から記録した。本宿主へのポリプの付着部位とクラゲ芽の出芽率を記録した。(93-94 頁)

論文 8. Kubota, S. The second example of metamorphosis of medusa from the *intermedia* form to the southern form in *Eutima japonica* (Leptomedusae, Eirenidae). [久保田信. コノハクラゲ(軟クラゲ目, エイレネクラゲ科)における *intermedia* 型から南日本型へのクラゲの変態の第二例]. コノハクラゲにおいて, *intermedia* 型のクラゲが南日本産のものに変態した第二例が, 実験室内での飼育により三重県座賀島産の個体群でも得られたので記載した。(95-97 頁)

論文 9. Yamato, S. A new amphiloichid species (Crustacea: Amphipoda: Amphiloichidae) from a spiny lobster. [大和茂之. イセエビに付着する新種のヨコエビ(甲殻綱: 端脚目: チビヨコエビ科)]. 白浜産イセエビの鰓室より得られたヨコエビを新種イセエビチビヨコエビとして記載した。本新種は, 第3-7 胸肢が垂鉗状であること, 第1, 2 咬脚の形態が雌雄で顕著に異なることなどの特徴がある。本新種の属の取扱いについて, 分類上の問題点を論議した。(99-106 頁)

(編集委員会)